

資料

看護教員が実施した「人間関係論」の授業評価 — 授業評価と満足度との関係 —

關 戸 啓 子^{*1}

はじめに

核家族化や地域とのつながりが薄くなった現代においては、若者は人間関係が希薄な中で育っている場合が多く、良い人間関係を築くのが苦手だといわれている¹⁾。これは、医療従事者を目指す若者であっても同じであろう。しかし、医療においては人を直接に援助するという仕事柄、人間関係は良い医療を提供する上で基本となる重要な要素のひとつである。そこで、将来の看護者・診療放射線技師・臨床検査技師を目指している大学生を対象に開講されている「人間関係論」を看護教員が担当し、臨床場面を設定したロールプレイングを取り入れるなどの工夫をしながら教育方法を模索してきた。

今回、今後の教育の改善に資するために授業評価を行った。学生がより満足できる授業を目指して、学生の満足度別に分析を行ったので報告する。

研究目的

「人間関係論」の授業評価結果を、学生の満足度別に分析し、学生の満足を低くしている要因を考察する。

研究方法

2003年と2004年の「人間関係論」最終講義日に、学生に授業評価用紙を配付した。研究の趣旨、参加は自由であり成績には影響しないこと、無記名で内容は統計的に処理されること、結果は学会・学会誌等で発表することを口頭で説明した。その後、協力を合意した学生は提出用の箱に授業評価用紙を入れるように依頼し退室した。学生の匿名性を守るために、授業評価用紙には所属・学年・性別・年齢の記載欄も設けなかった。

授業評価の設問は、徳島大学FD推進ハンドブック²⁾および牧野の授業評価表³⁾を参考に本授業の特

徴を加味して、授業への満足度と「授業内容」「授業方法」「成績の評価方法」で構成した。「思う」から「思わない」までの5選択肢で、回答を求めた。

「人間関係論」の授業方法

「人間関係論」は学科共通の基礎科目として、15時間1単位(1コマ90分の授業を8回)で開講されている。看護学専攻の学生は1年次必修科目、放射線技術科学専攻の学生は1年次選択科目、検査技術科学専攻の学生は2年次選択科目である。

授業形態については、履修学生が100名を越えるため、学生全員が興味を持って受講できるように、教員が一方的に講義する授業形態ではなく、学生参加型にしている。「前半60分講義」⇒「前半の講義に関連したロールプレイングを実施(20分程度)」⇒「課題用紙の記入(10分程度)」⇒「課題用紙の提出」という授業形態とした。学生は一斉にロールプレイングを実施し、そこからわかったことを「課題用紙」に書いて毎回提出する。

ロールプレイングの設定は、「親子関係」⇒「大学の友人同士」⇒「医療現場での患者・家族・医療従事者の関係」⇒「医療チーム内での人間関係」へと、身近な人間関係から徐々に臨床での人間関係に変化させている。

授業の成績評価は、出席・課題用紙・ペーパーテストで行っている。

結 果

授業評価用紙は、2003年は、受講学生108人(看護学専攻学生69人、放射線技術科学専攻学生38人、検査技術科学専攻学生1人)のうち99人(回収率91.7%)から提出があった。2004年は、受講学生120人(看護学専攻学生80人、放射線技術科学専攻学生37人、検査技術科学専攻学生3人)のうち110人(回収率91.7%)から提出があった。両年合わせて受講

*1 徳島大学 医学部 保健学科

(連絡先) 関戸啓子 〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学

E-Mail: sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp

学生は合計228人で、209人(回収率91.7%)から提出があった。兩年とも、有効回答率は100%であった。この内、「人間関係論」の授業について「満足」と回答した学生は165人(78.9%)であった。この学生たちを本研究では「満足群」とする。また、「どちらともいえない」と回答した学生は30人(14.4%)で、「不満足」と回答した学生は14人(6.7%)であった。「どちらともいえない」と回答した学生は、少なくとも満足ではなかったと判断されるので、本研究では便宜上、「どちらともいえない」「不満足」と回答した学生を合わせて「不満足群」とする。

「満足群」「不満足群」別に、授業評価の結果を示したものが表1である。評価項目の設問に対して、

「思う」「そう思う」と回答した割合を、満足度別に図にしたものが図1～3である。

「授業内容」に関する評価では、満足群は不満足群に比べて、全ての設問において現在の授業内容を肯定的に評価しており、有意差が認められた。特に、「内容はわかりやすかった」「役に立つ内容だった」「興味の持てる内容だった」という設問には、満足群の9割以上の学生が肯定的に回答していた。不満足群の学生は、「ロールプレイングは不要」「毎回の課題用紙は不要」とであると、満足群の学生より有意に多くの学生が回答していた。

「授業方法」に関する評価では、不満足群の方が満足群よりも有意に多くの学生が「講義が聞き取り

表1 「人間関係論」の授業評価結果
— 授業への満足度別 —

評価項目(設問)		評価	思わない	あまり思わない	どちらともいえない	やや思う	思う
授業内容について	内容はわかりやすかった	満足群 不満足群	1人(0.6) 2人(4.5)	0人(0.0) 6人(13.6)	15人(9.1) 18人(40.9)	56人(33.9) 16人(36.4)	93人(56.4) 2人(4.5)
	役に立つ内容だった	満足群 不満足群	1人(0.6) 2人(4.5)	2人(1.2) 4人(9.1)	8人(4.8) 10人(22.7)	37人(22.4) 24人(54.5)	117人(70.9) 4人(9.1)
	興味の持てる内容だった	満足群 不満足群	1人(0.6) 4人(9.1)	2人(1.2) 3人(6.8)	10人(6.1) 17人(38.6)	52人(31.5) 17人(38.6)	100人(60.6) 3人(6.8)
	教科書は適切だった	満足群 不満足群	3人(1.8) 6人(13.6)	8人(4.8) 5人(11.4)	27人(16.4) 21人(47.7)	78人(47.3) 9人(20.5)	49人(29.7) 3人(6.8)
	進度は適切だった	満足群 不満足群	1人(0.6) 4人(9.1)	6人(3.6) 4人(9.1)	24人(14.5) 18人(40.9)	71人(43.0) 14(31.8)	63人(38.2) 4人(9.1)
	プリントは適切だった	満足群 不満足群	2人(1.2) 2人(4.5)	1人(0.6) 4人(9.1)	33人(20.0) 19人(43.2)	47人(28.5) 11人(25.0)	82人(49.7) 8人(18.2)
	ロールプレイングは不要	満足群 不満足群	78人(47.3) 5人(11.4)	64人(38.8) 15人(34.1)	18人(10.9) 17人(38.6)	3人(1.8) 5人(11.4)	2人(1.2) 2人(4.5)
	毎回の課題用紙は不要	満足群 不満足群	81人(49.1) 10人(22.7)	68人(41.2) 15人(34.1)	12人(7.3) 13人(29.5)	2人(1.2) 4人(9.1)	2人(1.2) 2人(4.5)
学習する内容が明確だった	満足群 不満足群	1人(0.6) 4人(9.1)	1人(0.6) 8人(18.2)	20人(12.1) 17人(38.6)	75人(45.5) 13人(29.5)	68人(41.2) 2人(4.5)	
授業方法について	講義が聞き取りにくい	満足群 不満足群	79人(47.9) 9人(20.5)	58人(35.2) 8人(18.2)	15人(9.1) 11人(25.0)	7人(4.2) 13人(29.5)	6人(3.6) 3人(6.8)
	教員の態度が不快である	満足群 不満足群	113人(68.5) 10人(22.7)	36人(21.8) 12人(27.3)	14人(8.5) 13人(29.5)	1人(0.6) 6人(13.6)	1人(0.6) 3人(6.8)
	早口である	満足群 不満足群	52人(31.4) 5人(11.4)	56人(33.9) 4人(9.1)	26人(15.8) 17(38.6)	23人(13.9) 12人(27.3)	8人(4.8) 6人(13.6)
	スライドやビデオも使って欲しい	満足群 不満足群	30人(18.2) 7人(15.9)	34人(20.6) 13人(29.5)	41人(24.8) 13人(29.5)	47人(28.5) 8人(18.2)	13人(7.9) 3人(6.8)
	講義中に学生の意見を聞いて欲しい	満足群 不満足群	58人(35.2) 18人(40.9)	61人(37.0) 12人(27.3)	36人(21.8) 9人(20.5)	9人(5.5) 3人(6.8)	1人(0.6) 2人(4.5)
	もっと学生が参加する授業の形態が良い	満足群 不満足群	47人(28.5) 17人(38.6)	68人(41.2) 7人(15.9)	39人(23.6) 13人(29.5)	8人(4.8) 6人(13.6)	3人(1.8) 1人(2.3)
	成績の評価方法	今回の評価方法が良い	満足群 不満足群	2人(1.2) 2人(4.5)	5人(3.0) 3人(6.8)	26人(15.8) 12人(27.3)	30人(18.2) 12人(27.3)
ペーパーテストのみが良い		満足群 不満足群	107人(64.8) 18人(40.9)	27人(16.4) 10人(22.7)	26人(15.8) 10人(22.7)	4人(2.4) 3人(6.8)	1人(0.6) 3人(6.8)
毎回の課題用紙のみが良い		満足群 不満足群	48人(29.1) 6人(13.6)	41人(24.8) 2人(4.5)	21人(12.7) 21人(22.7)	23人(13.9) 9人(20.5)	32人(19.4) 17人(38.6)

注) 満足群: n=165, 不満足群: n=44, () 内は%

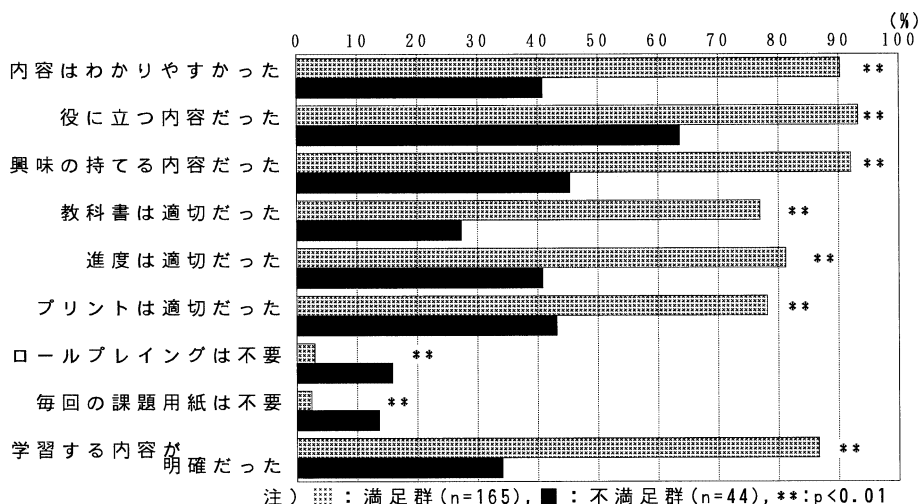


図1 「人間関係論」の授業評価結果(授業内容について)
— 満足度別,「思う」「そう思う」と回答した割合 —

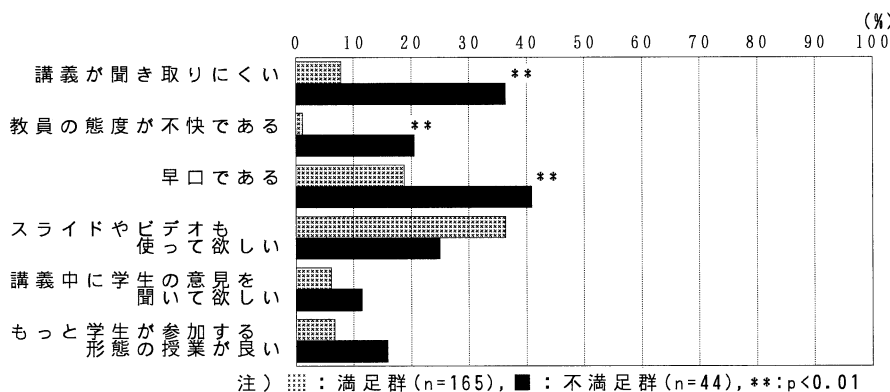


図2 「人間関係論」の授業評価結果(授業方法について)
— 満足度別,「思う」「そう思う」と回答した割合 —

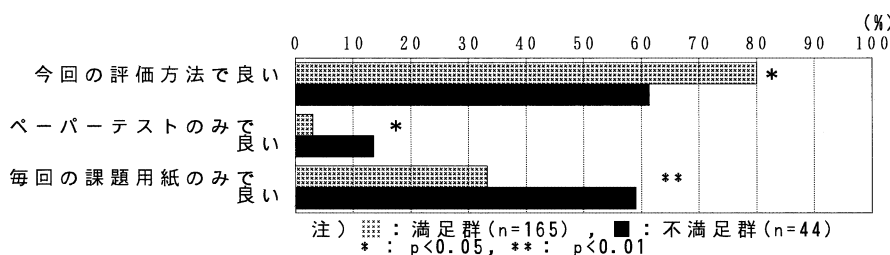


図3 「人間関係論」の授業評価結果(成績の評価方法について)
— 満足度別,「思う」「そう思う」と回答した割合 —

にくい」「教員の態度が不快である」「早口である」と回答していた。「スライドやビデオも使って欲しい」「講義中に学生の意見を聞いて欲しい」「もっと学生が参加する形態の授業が良い」という設問では、満足群と不満足群の回答に有意差はなかった。

「成績の評価方法」に関する評価では、満足群は不満足群に比べて「今回の評価方法で良い」と現在の方法を支持する回答が有意に多かった。不満足群

は、満足群に比べて有意に多くの学生が、現在の評価方法を否定的にとらえた回答をしていた。

考 察

満足群では、ほとんどの学生が授業内容に興味を持ち、わかりやすかった、役に立つと評価しており、本授業のねらいである臨床で役立つ人間関係を学習する目的はほぼ達成できたと考えられる。

一方、不満足群では、興味が持てない、学習内容が不明確など、本授業の目標が十分達成できなかった様子が窺える。不満足群は、ほとんどの項目で満足群よりも現在の授業を否定的にとらえており、特定の要因が満足度の低下に作用しているわけではないことがわかった。牧野⁴⁾の研究においても、授業評価の評価が高い学生ほど、満足度も高いことが報告されており、今回の調査でも同様の結果であった。むしろ、ひとつの授業に対して「授業内容」「授業方法」「成績の評価方法」全てについて、満足群と違う授業評価を不満足群がくだすということは、最初に授業に期待していたことが異なっていたか、授業への動機付けが低かったことが考えられる。不満足群は「ロールプレイングは不要」「毎回の課題用紙は不要」と、学生の積極的な授業参加を必要とする形態を否定し、成績の評価方法については「ペーパーテストのみで良い」「毎回の課題用紙のみで良い」と負担が少ない評価方法を支持している。すなわち、本授業に対して必要性を理解して積極的に受講するという態度は見受けられないように感じる。授業の動機付けをしっかりと行うことの必要性が示唆された。また、自己評価の低い学生は、授業評価が低い⁵⁾という報告もある。学生参加型の授業は、一般的には学生にとって望ましい方法⁶⁾とされている

が、積極的にロールプレイングに参加することが苦手だったり、3専攻の学生合同授業であり、他の専攻学生とすぐのうちとけることが難しい学生もいるであろう。学生全員が参加しやすい授業作りを検討したい。さらに、レポートは提出したら終わりではなく、それを題材として授業を展開することの有用性が報告⁷⁾されており、本授業でも課題用紙を有効に活用し、課題用紙に教員がコメントを加えることによって、学生の自己評価を高め、積極的な授業参加を促す方法に授業を改善していきたい。

おわりに

「人間関係論」の授業評価結果を、満足群と不満足群に分けて分析したところ、満足群はほとんどの設問において、不満足群よりも有意に現在の授業方法を肯定的にとらえていた。一方、不満足群は、特定の内容に不満があるのではなく、授業全体に対して否定的な評価であった。このことから、学生には授業の動機付けを強化し、自己評価が高まり、積極的に授業に参加できるような工夫を行うことの必要性が示唆された。

本研究は、日本看護学教育学会第16回学術集会(2006年)において発表した。

文 献

- 1) 坂口哲司：人間関係 ―人間の生涯・出会い体験―。初版，ナカニシヤ出版，京都，1998。
- 2) 曾田紘二，長積仁，寺嶋吉保，井上哲夫，佐竹昌之：授業評価アンケートの作り方・フィードバックの仕方ハンドブック。徳島大学大学教育委員会監，徳島大学FD推進ハンドブック第2巻，初版，徳島大学大学開放実践センター，徳島，76-114，2003。
- 3) 牧野幸志：学生による授業評価，満足感と成績との関係 ―成績の悪い学生は本当に授業を酷評するのか？―。高松大学紀要，38，35-47，2002。
- 4) 牧野幸志：学生による授業評価と自己評価，成績，及び学生の満足感との関係 ―専門必修科目「人間関係論」の場合―。高松大学紀要，35，17-31，2000。
- 5) 牧野幸志：学生による授業評価と自己評価との関連 ―ゲストスピーカーによる1回限りの講義を対象として―。高松大学紀要，37，83-92，2001。
- 6) 阿部和厚，西森敏之，小笠原正明，細川敏幸，高橋伸幸，高橋宣勝，小林由子，山舗直子，大滝純司，和田大輔，佐藤公治，佐々木市夫：大学における学生参加型授業の開発(2)。高等教育ジャーナル ―高等教育と生涯学習―，6，156-168，1999。
- 7) 相模健人：学生の意見，アイデアを取り入れた授業方法の改善に関する研究 その2 ―解決志向セラピーの質問方法を用いて―。愛媛大学教育学部紀要 教育科学，5(1)，77-83，2003。

(平成18年11月1日受理)

**Student Ratings of Teaching for Human Relationships by Nursing Teachers
— the relation of student ratings of teaching and satisfaction with the class —**

Keiko SEKIDO

(Accepted Nov. 1, 2006)

Key words : ratings of teaching, human relationships, nursing teachers, satisfaction

Correspondence to : Keiko SEKIDO

Major in Nursing, School of Health Sciences

The University of Tokushima

Tokushima, 770-8509, Japan

E-Mail: sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.16, No.2, 2006 347-351)